

# 令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 ー分析から見てきた成果・課題と今後の取組についてー

区 名 鶴見区

学 校 名 茨田北小学校

学校長名 東 義孝

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

### (2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・茨田北小学校では、第6学年 100名

学校名 茨田北小学校

## 令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

・全国平均と本校との平均正答率、平均無解答率のポイント差は、以下の通りだった。

○国語	平均正答率	－ 6. 8	平均無解答率	－ 0. 4
○算数	平均正答率	－ 8. 0	平均無解答率	＋ 1. 3
○理科	平均正答率	－ 1 0. 1	平均無解答率	＋ 0. 2

・平均正答率では、3教科とも全国平均を下回った。平均無解答率においては、国語が全国平均を下回ることができた。

## 分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

全体では全国平均を6. 8ポイント下回る結果となり昨年度よりもさらに大きく下回る結果であった。しかし、平均無解答率については、昨年度の本校の結果より1. 5ポイント下回り粘り強く問題に取り組んだと考察する。

〔算数〕

全国平均を8. 0ポイント下回る結果となったが、昨年度の本校の結果より1. 4ポイント上回ることができた。しかし、平均無解答率は昨年度より3. 3ポイント上回り、解答を記入していない児童が増えていた。また、領域の図形に関しては正答率が低く全国平均との差が開いた。この結果から、図形を構成する要素及び構成の仕方を考察し図形の性質を見出せるよう低学年から数学的活動を系統立てて今後も行っていく必要がある。

〔理科〕

平均正答率では、大阪市平均を下回る結果となった。唯一「生命」を柱とする領域問題で全国平均を上回ることができていた。このことから、実験を行った学習活動は記憶に残っており、これからも理科の学習活動において観察や実験を通して実際に体感して学び、科学に対する基本的な概念等の一層の定着を図るようにしていく。

質問調査より

児童質問調査の「人に役立つ人間になりたいと思いますか」の項目において、肯定的な回答が全国平均を上回り97. 0%だった。また、「自分にはよいところがありますか」の項目において最も肯定的な回答が58. 0%、「将来の夢や目標をもっていますか」の項目において最も肯定的な回答が71. 0%だったことから、自分を大切に思い自分の将来に向かって目標をもって健やかに学校生活を送っていると考察する。また、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目において否定的な回答があることから、これからも「いじめを許さない」心を育むよう「いのち」の大切さの学びを深め、他者への思いやりを育む取組を継続して行う。

## 今後の取組(アクションプラン)

・大阪市の学力向上支援チーム事業を活用し、スクールアドバイザーによる国語科を中心とした実践的指導を継続して受けているところである。これらの力は短時間でつくものではなく構築していく必要があるため今後も継続した取組を行う。

・今後も子どもたちが自分の考えを持ち、それを表現できる場の設定を取り入れた学習活動や学校行事を計画する。

・教員の人間性・資質の向上となるような研修を行い、子どもたちに還元していけるようにする。

・キャリア教育の充実を図るため、各学年の発達段階に応じた内容となるよう、外部講師による出前授業等を積極的に取り入れる。